

学校教育目標	確かな学力を身につけ、人間尊重の精神に富み、心豊かでたくましく生きる松原中学生の育成	重点目標	基礎的・基本的な知識や技能を身につける生徒の育成 進んで学習する生徒の育成 行事や体験活動に積極的に取り組む生徒の育成
--------	--	------	---

重点目標に関する評価	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画	
	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果と課題)	評価	コメント	次年度に向けた改善策案	
	基礎的・基本的な知識や技能を身につける生徒の育成 進んで学習する生徒の育成 行事や体験活動に積極的に取り組む生徒の育成	基礎・基本の定着	TT授業・少人数授業を実施する。(数学・技術全学年、社会2年生、理科3年生)	すべての生徒が学習活動に参加し、課題に取り組める用になる。	3	・TT授業の実施で生徒の疑問にも即座に答えることができ、個別に指導ができた。 ・TT、少人数できめ細かい指導、個々に応じた指導ができた。学習規律を高めることができた。	A	資料を通して評価の根拠が分かりやすかった。 ・TT授業の取組はよいと思いますが、もっとTTの授業を増やしては？(英語など) ・個々の学習の分からない点を探して指導されたいと思う。(分かるまで何回でも指導を) ・学校アンケート集計結果からも、質問・説明・指示などが分かりやすく、嬉しいと感じて、生徒が授業に臨んでいるところから十分な成果があったと評価できる。	・TTや少人数授業のさらなる推進すかった。 ・年間計画に入れ込んだ方がよい。 ・必要な生徒については個別の指導計画をつくり計画的な指導を行っている。
学習コンクールを実施する			学期毎に実施に、合格するまで繰り返す。8割以上の生徒が合格する	3	・学習コンクールの実施については計画を立てておく。 ・学習コンクールによって勉強の意識付けが来ている。	A			
9年間の育成計画に基づいた学習過程の工夫			めあて、見通し、調べる、まとめるの授業過程の確立	3	・目当てとまとめは意識して授業の取組ができた。 ・研究のことが重なり意識して取り組む事ができた。 ・定着できていない。	A	・学習過程の形は出来たので次年度はその確立に向けて取り組む		
授業の中で、他人の意見を聞き自分の考えをまとめ時間をつくる			授業の終わりに自分でまとめを書けるようになる	2		B			
達成感を持たせる授業展開の工夫		学習プリントを工夫する	すべての生徒が学習プリントに取り組もうとしている	3	・個に応じた課題作成まで至っていない。 ・生徒の興味関心を高め、基礎基本が定着するように学習プリントを工夫した。	A	・習熟の程度に応じた2種類以上のプリントが準備できたらいい。		
個別の課題を与える		すべての生徒が自分の課題に取り組み、できたと感じている	2	・実技の時は良かったと思うが、そうでないときはだめだった。	A	・興味を持つよう資料を準備してから授業をする。			
進んで学習する生徒の育成		進路指導の充実	教育活動全体を通してガイダンス機能を充実する	進路について目標を持つことができる	3	・体験活動を通して生徒の自主性が育ち、進路についても自分のこととして考えるようになった。 ・総合学習のからみから計画的な取組ができた。	A	・将来に夢を持つような取組、例えば現場で活躍している人を呼んで、学校で聴けるような取組を。 ・新聞記事、ニュース等を取り入れ討論会等をしたらどうですか。	・体験活動の事前・事後の指導を充実させ、より活動が有意義なものになるよう取り組む。
			社会体験学習による事前事後指導の充実	事前指導を受けることで、目的意識を持って体験活動に取り組む事ができる	3		A		
		朝自習の充実	朝自習は複数の教員で指導にあたる	複数の教員で指導に当たると、課題に取り組めない生徒が減少する	3	・テスト形式で行ったことで、意欲的に取り組めていた。 ・学年みんなで輪番で指導に当たった。 ・PDCのサイクルでほぼ出来た。	A	・家庭学習の指導強化を、家庭学習強化月間などあったら子どもたちの意識化につながるのでは？ ・高校入試の結果からもほとんどの生徒が希望の学校へ合格しており、取組の成果はよかったと評価することが出来る。	・指導体制をつくり朝自習と家庭学習をつなげる。
			朝自習の課題から、定期考査の問題を一部出す	意欲を持って課題に取り組み、わからないところは友達に尋ねる	3	・朝自習の取組方についてはさらに工夫が必要だと思う。	A		
家庭学習の充実		家庭と連携して基本的な生活習慣と家庭での学習習慣を身につけるよう取り組む。	毎日、短時間でも家庭学習に取り組む	2	・家庭学習の習慣がまだ身につけていない。 ・自学ノートの提出率、内容を充実させる指導が足らなかった。	A	・小中連携の取組の成果は出ていたと思います。	・指導体制をつくり朝自習と家庭学習をつなげる。	
		家庭学習の手引きを用いて家庭学習の仕方について指導を行う	自学ノートの内容が充実する	2	・取り組んでいる生徒は大変よく取り組んでいるが、取り組んでいないものが多い。	A			
行事や体験活動に積極的に取り組む生徒の育成	学校行事や体験活動の充実	小集団を意識する活動を盛り込む。	小集団の中で自分が何をすればよいかを考えるようになる	3	・役割分担を明確にすることで責任を持って取り組ませることが出来た。 ・生徒は自分の役割を果たすことで、自信を持ったり、友だちのがんばりを見ることでお互いの信頼感を持つことが出来た。	A	・体験活動や道徳の学習は役に立つと感じる生徒が増えているのは取組の成果がよかったと評価できる。自己概念のポイントが上がらなかったのは残念であった。次年度に期待したい。	・行事等を行うための事前事後学習を充実させる。	
		学校行事、体験活動の中から、互いのよさを認め合う評価活動を工夫する	評価されることで自信を持つ。また、他人のよいところをみれるようになる。	3	・友達の良さに目を向ける機会をできるだけできるように努めた。学年通信等で生徒の頑張りを伝えられたのはよかった。	A			
	道徳教育の充実を図る	道徳の時間における指導法を工夫し、計画的に実践する	生活アンケートで生徒の自己概念のポイントが上がる。	3	・昨年と比べて道徳の時間で学習することが生き方の役に立っていると感じている生徒が増えた。	B	・自己概念を上げるのが先生たちの力量なのでは？待っていてもあがらないと思います。先生たちの指導のやり方次第で代わってくるのでは、まず先生たちが手本となり子どもたちの背中を押すことを願います。	・行事等で頑張った生徒に対してそのがんばりを認める活動が必要。	
		学校行事・体験学習と関連をはかった道徳の授業の実施	集団の中で自分の役割を果たそうとする生徒が増える	3	・3回の学校生活アンケートの結果、自己概念のポイントが上がってこない。	A			
生徒の実態把握と改善	共有フォルダを利用した気になる生徒のカルテの作成	教師が生徒の情報を共有することで、指導に共通性を持たせ、生徒の生活が改善する	3	・定期的な生徒指導部会での情報交換が出来た。 ・学年における気になる生徒が、後半多すぎて指導までに達していない部分があった。	B	・個人カルテの作成と情報ネットワークの活用を進める。			
	生徒指導委員会、運営委員会を週時程に位置づけ、気になる生徒の把握に努める。	目の届いた指導を受け、生徒が自分の居場所を感じることができる	3		A				

評価について 【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70~90%) 2:もう少し(60~70%) 1:できていない(60%未満)

【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価はほぼ適切である C:自己評価はあまり適切でない D:自己評価は不適切である。

領域	評価計画			学校関係者評価		改善計画	
	評価の観点	評価指標(成果指標・取組指標)	評価	結果(成果と課題)	評価	コメント	次年度に向けた改善策 案
教育課程・学習指導	教育課程の編成・実施	計画と実施時数の確認	3	・少人数やTTできめ細かい指導や個に応じた指導が出来た。少人数指導では実習で丁寧な指導や安全面の配慮がより一層深まった。TTでは学習規律の徹底にもつながった。 ・家庭学習の時間がなかなか上がってこない。生徒の学習意欲の向上が大きな課題となっている。	A	・予習、復習をする生徒が少ないのが気になるが、2年、3年は受験勉強のため多くの勉強をしているのだろう。入試の結果に表れている。 ・アンケートの取り方も xや1,2,3とかではなくコメントを求めている？	・計画的に実施しているものの今年度の課題点を改善していく。 ・授業前、授業後のアンケートをとり実態把握しこまめにとることが次の課題発見につながる。
		教務手帳提出による学習内容・指導内容の把握	3		A		
	学習指導の工夫改善	少人数授業などの形態や教材の工夫	3		A		
		生徒による授業アンケート	3		A		
進路指導	自己実現を目指した進路指導	体験活動を取り入れた進路指導の実施	3	・松原タイム等で全学年体験活動を実施し、将来の進路に向けて生徒たちの意識が高まってきている。	A	・生徒の伸びようとしている芽を発見して伸ばしてください。先生の一言、ほめることが将来の進路や夢の実現につながることも。 ・体験活動は充実していると思います。もっといい評価でもよいのでは。	・3年間を見通した「生き方指導」を計画的に推進していく。 ・これまで以上に体験活動の事前事後指導で目的意識や達成感を持たせるようにする。
	進路保障	卒業後の進路の確保	3		B		
生徒指導	「生活のめあて」の徹底 いじめ不登校への迅速な対応 問題行動への組織的対応	8割以上の生徒が守る	3	・保護者間の経済格差があるために生徒指導の一律化に弾力性を持って臨むことが重要であった。 ・ほとんどの生徒が規則を守れているが、一部生徒の郊外での逸脱行動が見受けられる。 ・SC,SSWとの連携は十分にとられていた。	A	・生徒、保護者がSC,SSWに相談や話したいと思っている人はまだいると思う。活用がしやすいように考えて欲しい。 ・小中の情報共有がなされ早期対応が出来ていたと思います。 ・児童相談所との連携を密にして適切に対応されている。	・規範意識を高めていく活動を増やす。 ・問題行動に対する対応策を再検討
		発生率の減少 SC,SSWの有効活用	3		B		
		情報の共有、指導の一貫性	3		B		
保健管理	保健管理体制	環境衛生の管理状況、健康教育の実施	3	・毎日の保健調査もしっかり行い、健康状態の管理も出来ていた。 ・食育教育等が係に任せきりになっていた部分がある。	A	・食の大切さ(特に朝食)や添加物の害等を含めて食育を、朝食をきちんと食べるという指導が徹底してきたと思われる。	・各領域の指導計画を学年毎に関連づけて作成する。
安全管理	校内の安全管理	月1回の安全点検	3	・計画通り実施できた。 ・施設が古いため十分な安全管理が必要である。 ・避難訓練、防犯教室等は計画通りに実施できた。	A	・校内安全はもちろん、自身の安全確保の訓練等繰り返し実施してください。 ・炭坑の掘った上に立っている古い建物なので、地震については注意が必要だと思う。	・これまでの防災教育の中に地震や、津波などの対応についても加えていく。
	意識向上	防犯教室、避難訓練の実施	3		A		
特別支援教育	生徒の正しい理解と指導	コーディネーターを中心とした実態の把握と個への対応	3	・もっと職員全体で共通理解するための研修が必要であった。	A	・しっかりした対応をして子どもたちを迎えて欲しい。 ・生活体験型の授業に2人の生徒が熱心に取り組んでいた。	・実態把握とそれに対処する指導のあり方の研修を進めたい
組織運営	主任主事の責任の明確化と分掌間の連携	主任主事のリーダーシップと校務分担の明確化	3	・早めの連絡指導が出来た。	A	・組織的に動かれているように思う。	・分掌の見直し(統合と細分化)
研修	主題研究の推進	推進委員会の定例化、全員1回以上の公開授業	3	・魅力ある学校づくり研究推進事業、推進事業研究を推進し、小中連携に関する研修、授業の進め方に関する研修、公開授業等取り組む事ができ、教職員の意識・力量も向上した。 ・計画的校外研修が不十分であった。	A	・校外研修は積極的に、他校の良さ、悪さを発見できる場でもあり、本校にいかしてもらいたい。 ・先生方はとても頑張られていました。 ・研究推進事業後に改めて見学の申込があるなど取り組む意欲が向える。	・校外研究会に全員が一回以上参加できる体制を作る。
	校外研修会への積極的参加	年1回以上参加	3		A		
教育目標・学校評価	重点目標の設定	前年度の反省・実態を元にした重点目標の設定	3	・研究推進にからみ数々のアンケートを行い、実態の評価は十分に出来たが、具体的な改善については十分には出来なかった。	A	・教職員の意識、力量の向上が評価の向上につながる。次年度に期待したい。	・学校評価計画をつくり、確実に実施し、評価、改善まで行う。
	学校評価実施と活用	学期ごとの評価と改善	3		A		
情報提供	保護者・地域への積極的参加	学校・学年・学級通信等の発行	3	・学校・学年・学級通信等毎月発行し学校の様子を保護者地域に伝えることが出来た。	A	・地域への情報提供は是非継続して欲しい。学校へ関心を向けるようになる。	・出前学校説明会の継続。 ・Mボードの活用。
保護者・住民等との連携	幼・保・小・中連携	合同研修会の実施	3	・計画通り研修会を実施することが出来た。 ・出前学校説明会を実施し、地域保護者に積極的に情報提供を行った。	A	・出前学校説明会にはもっと多くの保護者が参加するように(PTAの全保護者に案内する等呼びかけの工夫されたらどうか)参加して学校の様子がよく分かった。 ・幼稚園や小学生を参加させた運動会などされて、地域との連携を図っておられる。	・小中お互いの授業を見に行くことで、授業研究。子どもの実態把握を進める。 ・生徒の小中交流を計画的に行っていく。
	保護者・地域住民との連携	学校行事への参加、地域行事への参加	3		A		
教育環境整備	校舎内外の環境美化	清掃指導の徹底、花壇の整備	3	・係の先生に頼ってしまった面がある。	A	・全生徒がかかわるような形の検討を ・ゴミの散らかりはなくきれいに清掃されている。	・生徒会の委員会の活用を検討する。

評価について [自己評価] 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70~90%) 2:もう少し(60~70%) 1:できていない(60%未満)

[学校関係者評価] A:自己評価は適切である B:自己評価はほぼ適切である C:自己評価はあまり適切でない D:自己評価は不適切である。